

建設業
離職率

3年以内 高卒48.5%

大卒は約3割

定着の困難浮き彫り

2011年3月卒業者で建設業に就職した3万0079人のうち、就職後3年以内に仕事を辞めたのは1万1568人おり、卒業後3年以内離職率が38.4%となったことが、厚生労働省の最新者離職状況から明らかになった。前年(10年3月)の卒業者と比べ離職率は1.1ポイント上昇した。大卒者は1万5053人が就職し、3年以内に4402人が離職、離職率は1.6ポイント増の29.2%だった。高卒者は1万1532人の就職に対し、5597人が仕事を辞めたことから、3年以内離職率は1.7ポイント増の48.5%と、ほぼ2人に1人が離職している。全産業の高卒離職率39.6%と比べ、建設業の離職率は8.9ポイント高く、人材を確保しても定着が困難であることを浮き彫りにしている。

厚労省では、就職した業種に関係なく、11年卒は厳しい雇用環境で不本意な就職をした人が多かったとみられることから、早期離職の増加につながったと分析している。このため、入社後のイメージと実際のギャップによる離職につながるようなよう、企業に対し採用活動時に十分な情報の開示を促していく方針。

人材の確保・定着は、建設業の喫緊の課題であることから、建設業の企業はこれまで以上に人材の定着に向けた企業努力が求められそうだ。

建設業における大卒の離職者数と離職率は、1年目までが2023人、13.4%、2年目までが3234人、21.5%、3年以内で4402人、29.2%となる。高卒では1年目までで3176人、27.5%、2年目までが4517人、39.2%、3年以内で5997人、48.5%だった。短大などの卒業者は、建設業に3185人が就職、1年目までで719人、22.6%、2年目までで1048人、39.9%、3年以内で1326人、41.6%が離職した。中卒は309人が就職したものの、1年目までで169人、54.7%、2年目までで219人、70.9%、3年以内では238人、77.0%が離職している。

業種に関係なく企業規模別では、大卒が従業員1000人以上で3年以内離職率が22.8%だったのに対し、5人未満では60.4%に上る。高卒も1000人以上の企業では3年以内に仕事を辞めた人は20.0%だが、5人未満になると67.6%となる。

12年3月卒業者で建設業に就職したのは、大卒が1万6003人、高卒が1万2061人となっているが、既に2

年目までに大卒で21.6%、3462人、高卒で41.9%、4945人が離職している。また、建設業に就職した13年3月卒業者は大卒1536人、高卒1万4000人と、前年卒業者と比べているものの、1年目目までに大卒が12.6%の2237人、高卒で26.1%の377人が既に離職した。